

除夜会

《竹灯籠の夕べ》

12月31日
【大晦日】
夜7時頃から
点灯します
於：法輪寺



除夜会のお勤め（正信偈）は、
夜8時からです。

昨年に引き続き、大晦日に除夜会を



で、温かい飲み物も用意します。本年は夜8時から
の家族そろってお参り下さいま
すようご案内申し上げます。

竹灯籠

凍える境内（にわ）を
やわらかにする



おかみそり

監事 北村幸雄

「本年の仏恒例の本山参拝で、
「おかみそり」を受けませんか？
との案内を頂き、そこで「法名」
を頂けるのことでした。また自
分が何分かついていないことを証
明してもしまいました。それは？
法名とは？「おかみそり」とは？
お葬式の時にも戒名とは違うの
何故いま思うところ？・・・
で、今から思うところ？・・・
決めたのは、最終的に受けること
早めにもう一度法名は縁があれば
よ」と言う母の助言と、参拝の同
行メンバーの何人かが受けるとい
う安心感からでした。本人には「お
みそり」について、本人には「お
然分かっていて、二度目の仏本山
参拝で、前回とは途中からの参加
したが、今回は全行程で参加する
ことができた。今回は全行程で参
会えたり、普段お付き合いの無い
方々との親睦も深められ、大変楽
しく有意義に過ごすことができた。

参拝の二日目の朝のお勤めは、本山
した。本堂で三十人ほどの人が三列に
正座（残念ながら私はひざの故障
で椅子でした）して、一人ひとり
におかみそりの儀式が執り行われ
ました。

まだ、理解が十分でない状態で
したが、なぜか清新な気持ちと緊
張感、不思議な心持ちが同居して
ぞんざいなことを覚えていきます。
「法名」を頂いて分かったこと
は、「おかみそり」を受け法名を
いただく儀式を「帰敬式（きぎよ
うしき）」と呼び、法名は仏教に
帰依して仏弟子になった人にさ
けられる仏法上の名前ということ
です。

葬式の時に、また別の戒名
に、浄土真宗では、また別の
とは、言わないという事です（う
ん、あちこちで戒名と聞いていた
ような気がするので、どうも筋
路は、おかしいように
です（ね）。いろいろ
と勉強です。

「名は私に授けられた法
煩悩の氷解の水と成る」
功德の水と成る」



これからの私達にとって本どと勝手なことを言っている。考えてみればまことに当に大事なことだと思いきる。

○ものの豊かさ
心こころの豊かさ
キリスト教を基盤とする
西洋の考え方は、人間以
外の生き物は、神が人間の
ために造つたものだと思
えます。
それに対して、仏教では
すべての「いのち」は縁に
よつて生じており、全てが
等しく尊いものであると教
えます。
近代の文明は、西洋的な
ものの考え方、つまり人間
を中心として発展してきま
した。
その結果、確かにものは
豊になり、私達はその豊か

どと勝手なことを言っている。考えてみればまことに横着なものです。

○おごれる人間への警鐘

昨今、「鳥インフルエンザ」とか「狂牛病」、さらには「鯉ヘルペス」など、今まであまり知らなかった病気が出てきています。

平生、牛肉や鶏肉はあつて当然、食べて当然と思つていたのが、目に見えないウイルスひとつで日本中、世界中がパニック状態に陥つてしまふ。

しかし考えてみれば、狂牛病や鳥インフルエンザのウイルスも、自然の摂理から見れば、けつして不思議な存在ではないはずです。

さや
便利
さ
に
よ
つ

送っています。が、同時に心の方へ、だんだんと貧しくなってきたりするように思われます。

このことは「お陰様で」とか「ありがとう」といった言葉が少なくなってきたり、無関係ではないように思われます。

その意味で、仏教的なものの方へは



は牛肉や鶏肉は、当然人間が食べるものだと思つていますから、大慌てしてしまふ。

「昨今、人間の都合ですることが、あまりにも当然だと思ひこみすぎているのではないでしようか。これらの病氣は「おごれる人類」に對する警鐘のような氣もします。（以下次号）

ご門徒法事での住職法話よ